



## 記事

### コンニャクの話

#### 白色度について

ちかごろ、都会で流行るもの



## コンニャクの話

寒さも日増しに厳しくなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。さて、寒くなってくると温かい鍋が恋しくなるのではないのでしょうか。群馬で鍋といえば、ネギとコンニャクですね。そのコンニャクは、食べるだけではなく、実は紙に使われていました。

紙子(かみこ)または紙衣(かみこ)と呼ばれるものにコンニャクが使われていたのです。紙子とは紙でできた着物のことです。楮で厚く漉いた和紙にコンニャク糊や柿渋などを塗りこんで防水性や強度などを持たせてあります。また、軽くて保温性もあるそうです。しかし、そのままでは硬くゴワゴワしているので、手でよく揉んで柔らかくしてから使ったそうです。

平安・鎌倉・室町時代は僧侶の法衣などに、戦国時代に入ると武将が陣羽織などにしたり、刀の鞘袋、道服など、江戸時代には一般庶民にも使用されるようになり、防寒着などとして広く使われていたそうです。

また、江戸時代は呉服屋の大福帳などにもコンニャクを使った紙が使われていました。なぜ、コンニャク紙が使用されていたのでしょうか。火事になった際に、大福帳を一番に持ち出し、井戸に放り込んで逃げるそ

うです。大福帳は顧客情報が記載されていますので、商品よりも何よりも大事なわけですね。その一番大切な大福帳を守るために水に強くしかも、墨がにじまないコンニャク紙を使っていたそうです。

コンニャク紙は、和紙を買ってきてコンニャク糊を塗ればいいだけなので、簡単にできます。試されると面白いかもしれません。

ちなみに、全国で生産されている80%以上は群馬県産だそうです。コンニャクがなぜ群馬県での生産が多いのでしょうか？コンニャク精粉は水分量が少ないほど純度が高く品質よいとされます。群馬県は秋から冬にかけて日本でもっとも空気の乾燥度が高い地域だそうです。そのため、群馬県産のコンニャク精粉は水分量が少ない高品質のものができるのだそうです。(T)



## 白色度について

今回は、よく耳にする白色度について簡単にご説明します。

白色度とは、紙の白さの尺度で、JISで規定されています。紙を白色度計というもので測定して、完全拡散反射面(反射率が100%の理想的な反射面)に対する反射量の比率で示します。

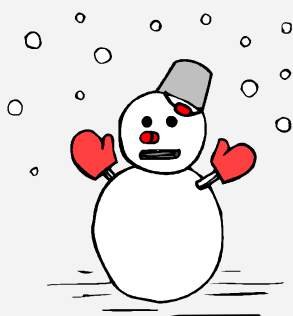
光を物に当てると、光の一部は透過し、一部は反射し、残りは吸収されます。すべての光を吸収すれば白色度0%(真っ黒)です。すべての光を反射、拡散すれば完全拡散反射面ということで白色度100%(真っ白)になります。数字が大きくなるほど白くなるということです。

**スギウラ株式会社**  
**営業一部**  
〒370-0006  
高崎市問屋町 2-2-8

**電話番号**  
**代 表**  
027-361-5808  
**営業一部**  
027-361-5734

**Fax**  
027-361-1272

**当社 Web サイト**  
現在、リニューアルにむ  
けて、作成中です。



お気付きの点や質問、  
疑問などありましたら、  
ご遠慮なく営業または、  
下記までお問合せくだ  
さい。

**お問合せ**  
**メールアドレス**  
sg-takahashi-t  
@kamisugiura.co.jp

しかし、人間が見た紙の白さと機械で測  
定した紙の白さは必ずしも一致しません。  
そのため、人間の目で見えて感じる白さを出  
すために、着色染料や蛍光増白染料を添  
加して青味にして、増白している紙もありま  
す。

印刷する場合は、紙の白さによって印  
刷発色のコントラストに変化がでます。その  
ため、印刷効果や印刷イメージに大きな影

響を与えます。印刷するときは考慮する必  
要があります。

一般的な白色度は、重袋用クラフトで 45  
～ 50%、新聞紙で 55%程度、バージンパ  
ルプの上質紙は 80%程度です。

ちなみに、三菱製紙では、国内最高峰  
の白さのリアルホワイトグロス(ISO 白色度  
100%)、リアルホワイトマット(ISO 白色度  
105%)があります。(T)

## ちかごろ、都会で流行るもの

昨今は、どこの業界に限らず広告費は  
減る一方で、なかなか広告系印刷物の受  
注もままならない状況です。チラシをはじ  
め、新聞広告やDMなどもアタマ打ちの  
中、より高い広報効果を得るために実に  
様々なアイデアの広告系印刷物が見られ  
るようになってきました。今回は、その中  
で、最近東京などで流行っているものをこ  
紹介いたします。

### クラフト紙

包装紙としてなじみの深いクラフト紙で  
すが、これを冊子の本文やチラシに使う  
場合が増えているようです。クラフト紙独  
特の手触りや、上質などとは明らかに違う  
色、そしてなにより特殊紙などに比べ低価  
格なことなど。この辺が広告主さんにウケ  
ているようです。もちろん多色刷りには適  
しませんが、一考の価値はあるのではない  
でしょうか。

### 透ける紙

下の印刷内容が透けて見える、といえ  
ば真っ先にトレーシングペーパーが思い  
浮かびます。しかし、それだけではありま  
せん。薄い特殊紙を使って視覚効果を高  
めるという方法もあります。例えばフレーバ  
ーボンドの薄いものを、あの波紋に合わ  
せ、雲や波を印刷するとか。また、タントセ  
レクトの薄いものは、ハードカバー本の力

バー用紙として、今、大変に人気があるよう  
です。さらに本家のトレーシングペーパーも  
勿論、負けていません。最近、DMで中が透  
けて見える封筒というのが散見されます。こ  
れは封筒のオモテ、内側、内容物と印刷す  
ることで、3段階に分けて透け具合を調整で  
きます。それによって、高い視覚効果が期待  
できます。

### 見えない

通常、広告というと出来るだけ印刷内容が  
ハッキリ見えるようにすると思います。しか  
し、それを逆手に取ったのがこのアイデアで  
す。例えば、青い紙に青系統の色で文字や  
絵を印刷する、ニスを部分的に引く、そうす  
ると当然よく見えません。よく見えないから、  
ちゃんと見ようと結果的にその広告物を注視  
するというわけです。パッと見て、1色ベタ塗  
りにしか見えないので、目を引きやすいのも  
ポイントです。これもDMをはじめ、本にも使  
われることが増えた、人気の手法です。ほか  
にも、光源のそばに貼られるポスターのグロ  
スを強めるというやり方で、この「わざと見え  
にくくする」技が使えます。

いかがでしょうか。お金のかかるものから、  
それほどでもないものまで、アイデア次第で  
いくらかでも応用可能なのが広告の世界で  
す。これらはあくまで、いま流行っている例  
ですが、まだまだ可能性が眠っているように  
は感じませんか。(A)